

東海地域の家計金融資産について

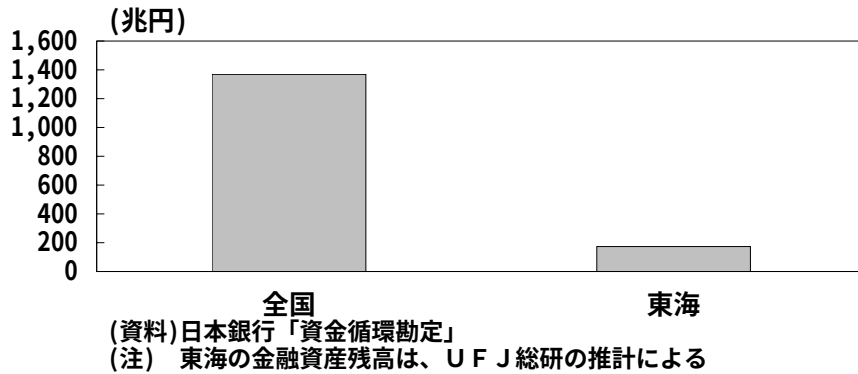
- 2002年度末の全国の家計金融資産総額は1,369兆円と、前年水準を2.4%下回った。東海地域（愛知、岐阜、三重、静岡）の家計金融資産総額を推計したところ、前年比3.5%増の173兆円となった。
- 1992年度から2002年度の10年間における東海の家計金融資産の平均増加率は3.3%と、東北に次いで2番目に高かった。この結果、東海の家計金融資産が全国に占めるシェアも拡大し、2002年度には12.6%に達した。
- 2002年度において、家計の金融資産と負債の比率を地域別に算出すると、東海は4.23倍となり、北陸に次いで2番目に高い。東海の家計の財務状況は、相対的に健全性が高いと考えられる。
- 家計金融資産の過去10年間の平均増加率と2002年度の金融資産・負債比率を地域別に比較すると、東海は、いずれにおいても全国平均を大幅に上回っている。これは、①相対的に良好な経済情勢 ②底固い地元企業の株価 ③高い貯蓄性向にみられる堅実な貯蓄行動を反映したものと考えられる。
- 東海の家計金融資産内容をみると、全国以上に「安全性」が重視されている。こうした安全性重視の投資行動も、資産価格の下落傾向が続くなかでは、金融資産の目減りを防ぐ方向に働いたとみられる。



1. 東海地域の家計金融資産総額

- ・2002年度末の全国の家計金融資産総額は1,369兆円と前年水準を2.4%下回った。
- ・東海地域（愛知、岐阜、三重、静岡）の家計金融資産総額を推計したところ、2002年度末の残高は、前年比3.5%増の173兆円となった。

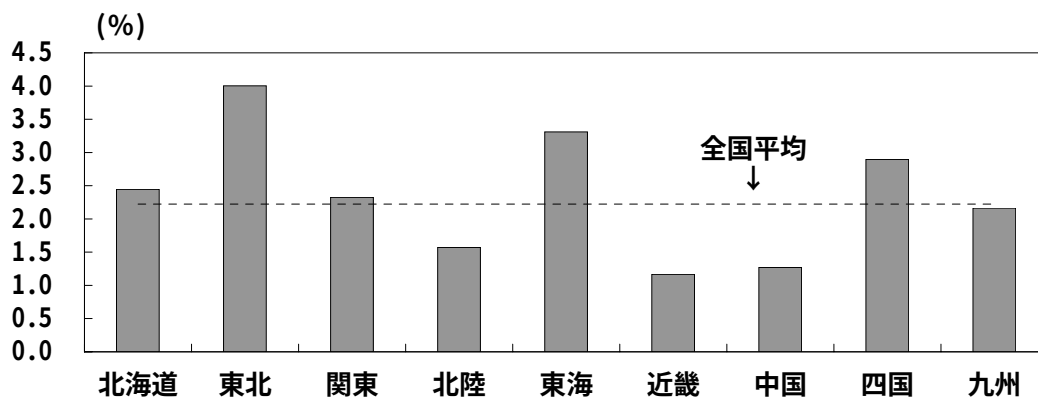
図表 1. 家計金融資産残高(2002年度末)



2. 増加率の地域比較

- ・1992年度から2002年度の期間において、東海の家計金融資産は、年平均3.3%増加した。地域別にみると、東海の増加率は、東北に次いで2番目の大きさ。

図表 2. 家計金融資産の平均増加率(1992～2002年度、地域別)

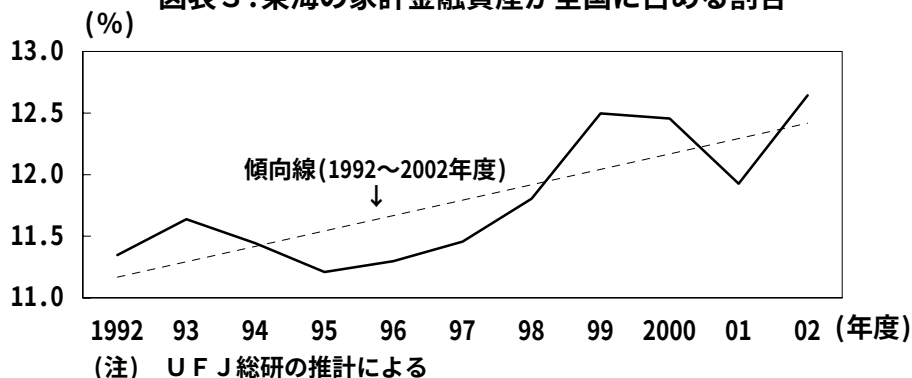


(注) 地域区分は、以下の通り

北海道：北海道 東北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
 関東：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
 北陸：新潟、富山、石川、福井 東海：愛知、岐阜、三重、静岡
 近畿：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
 中国：鳥取、島根、岡山、広島、山口 四国：徳島、香川、愛媛、高知
 九州：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

- ・東海の家計金融資産が全国に占めるシェアは拡大傾向にある。
- ・2002年度には、全国の家計金融資産が前年割れとなる一方、東海が前年比プラスとなった結果、東海のシェアは、前年の11.9%から12.6%に拡大した。

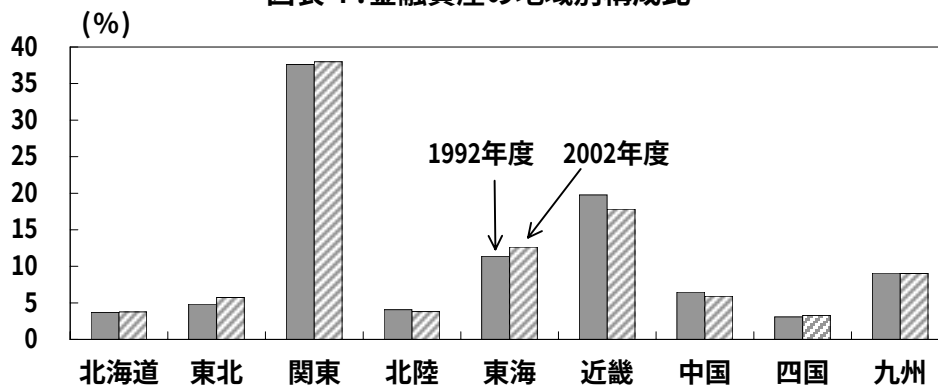
図表 3. 東海の家計金融資産が全国に占める割合



3. 金融資産の地域別構成比

- ・ 1992年度と2002年度の金融資産の地域別構成比を比較すると、東海の拡大幅は1.3%と最も大きい。
- ・ 一方、近畿、北陸、中国、九州では、構成比が低下した。

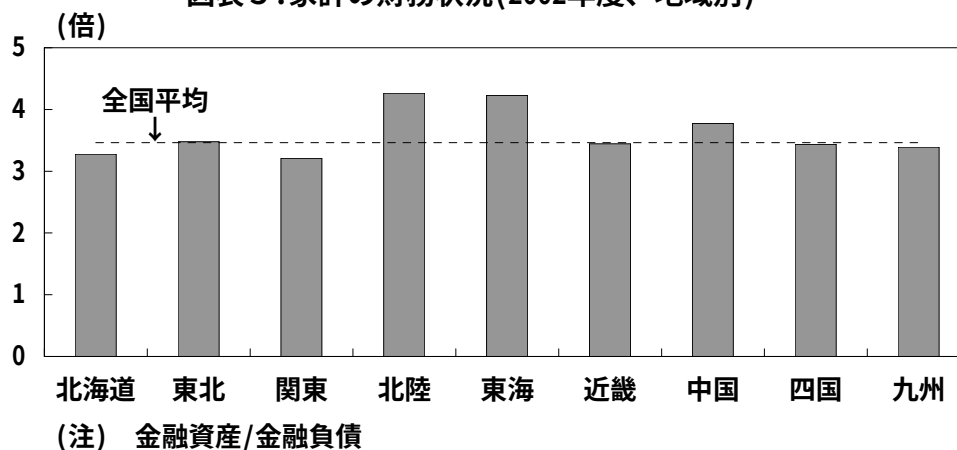
図表4. 金融資産の地域別構成比



4. 地域別にみた家計の財務状況

- ・ 2002年度において、東海の家計金融資産と負債の比率は4.23倍と北陸に次いで2番目の大きさ。
- ・ 東海の家計の財務体質は、相対的に健全性が高いと考えられる。

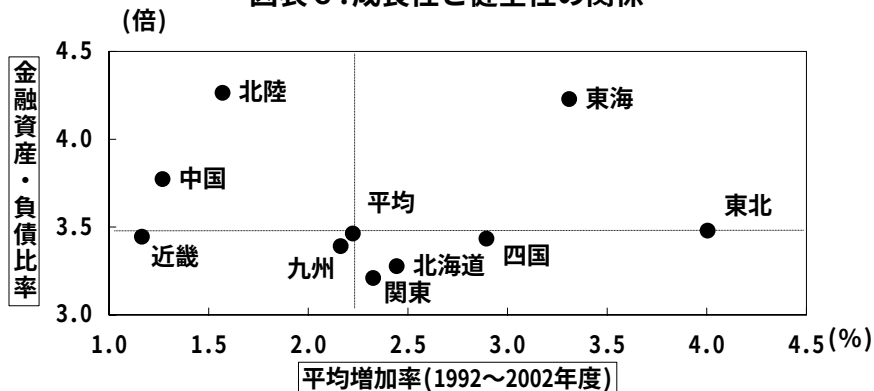
図表5. 家計の財務状況(2002年度、地域別)



5. 成長性と健全性の比較

- ・ 東海の家計金融資産は、1992～2002年度の平均増加率(成長性)と2002年度の金融資産・負債比率(健全性)のいずれにおいても、全国平均を大幅に上回っている。

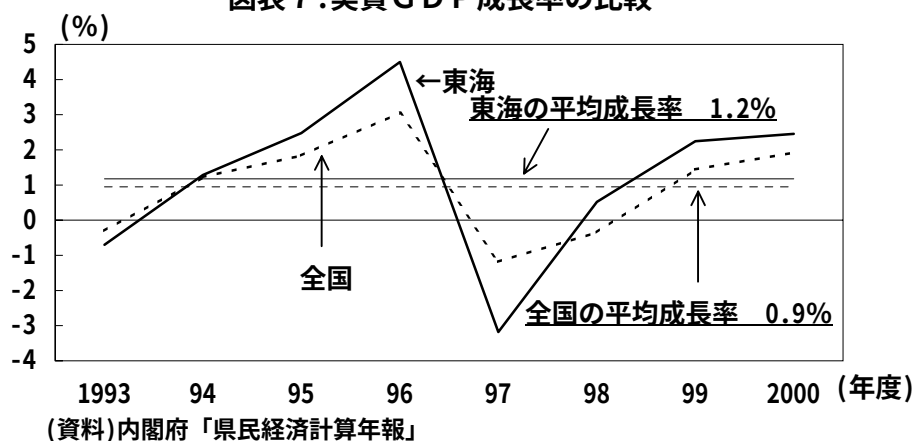
図表6. 成長性と健全性の関係



6. 要因①相対的に高い経済成長率

- ・バブル崩壊以降、東海の経済成長率は、全国に比べて高めに推移してきた。
相対的に良好な経済環境は、家計の金融資産にも反映されたと考えられる。

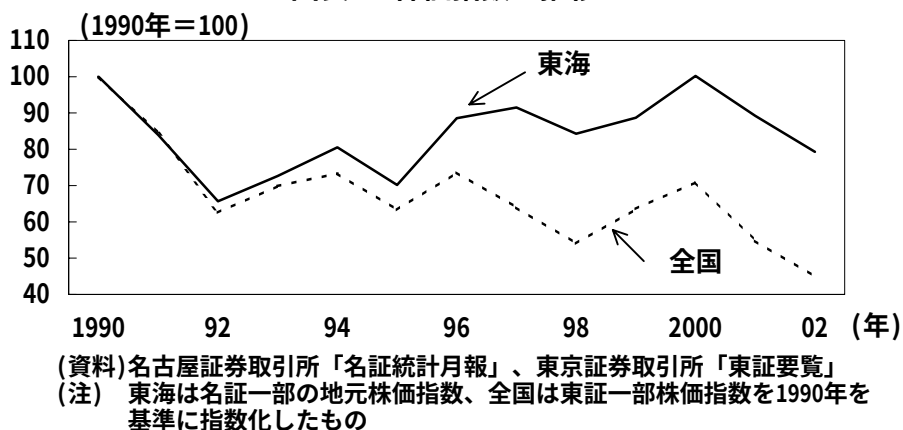
図表7. 実質GDP成長率の比較



7. 要因②底固い地元企業の株価

- ・東海地域企業の株価は、バブル崩壊以降、他地域より相対的に底固く推移。
- ・東海の個人金融資産に占める地元企業株式の割合は、全国比高いと考えられるため、株価下落が家計金融資産に与える影響は相対的に小さかったとみられる。

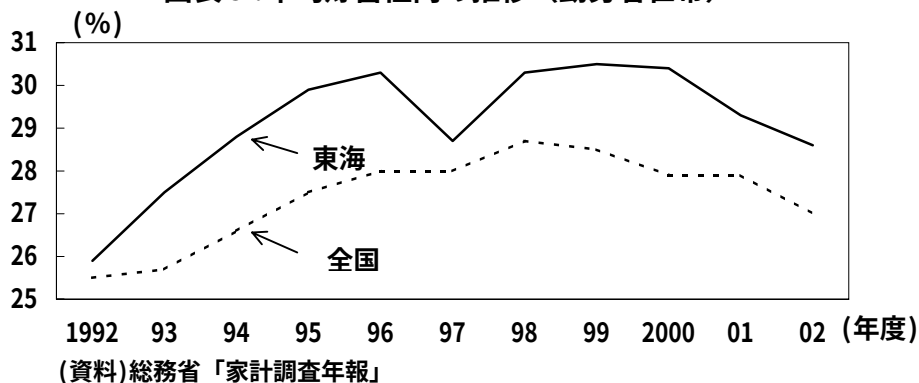
図表8. 株価指数の推移



8. 要因③高い貯蓄性向

- ・東海の貯蓄性向が全国平均を上回る水準で推移してきたことも、金融資産の積み上げに寄与したとみられる。

図表9. 平均貯蓄性向の推移（勤労者世帯）



9. 要因④安全性重視の運用姿勢

- ・バブル崩壊後、中部では、金融商品の選択基準として「安全性」を重視する傾向が全国以上に強まっている。
- ・安全性を重視する傾向は、金融資産の構成にもあらわれている。1992年度から2002年度にかけて、東海では、金融資産に占める流動性預金の割合が、全国以上に拡大した。
- ・バブル崩壊後、資産価格の下落傾向が続いており、こうした安全性重視の運用姿勢が金融資産の目減りを防いだ面もあるとみられる。

図表10. 金融商品の選択基準

金融商品の選択基準として最も重視する性質	中部			中部以外		
	2002年 (a)	1992年 (b)	変化幅 (a-b)	2002年 (a)	1992年 (b)	変化幅 (a-b)
安全性	53.2	40.0	13.2	52.8	41.4	11.4
流動性	27.5	28.5	-1.0	28.4	27.1	1.4
収益性	15.1	26.9	-11.8	14.0	28.1	-14.0

(資料) 金融広報中央委員会「家計の金融資産に関する世論調査」

(注) 中部は、愛知、岐阜、三重、静岡、長野、山梨の6県

図表11. 家計金融資産の構成

①東海

	現金	流動性 預金	定期性 預金	株式・ 株式 投信	信託 受益権	債券・ 公社債 投信	保険 準備金	年金 準備金	その他
2002年度(a)	2.6	14.0	40.5	5.6	1.4	2.8	17.9	10.3	5.0
1992 (b)	1.6	4.2	44.5	7.0	6.7	3.3	17.1	6.9	8.7
変化幅 (a-b)	0.9	(9.8)	-4.0	-1.4	-5.3	-0.5	0.8	3.4	-3.7

②全国

	現金	流動性 預金	定期性 預金	株式・ 株式 投信	信託 受益権	債券・ 公社債 投信	保険 準備金	年金 準備金	その他
2002年度(a)	2.9	13.3	40.4	4.8	1.2	2.8	18.5	10.5	5.6
1992 (b)	1.7	5.2	42.3	7.7	5.9	4.2	17.0	6.7	9.2
変化幅 (a-b)	1.2	(8.1)	-1.9	-3.0	-4.7	-1.4	1.5	3.8	-3.6

(資料) 日本銀行「資金循環勘定」

(注) 東海の金融資産構成はU F J 総研の試算による

【参考文献】

家森信善（2003）「東海金融の明日を考える」（中部経済新聞「社会人のための経済学」）
日本銀行名古屋支店（2000）「当地家計部門の貯蓄行動上の特徴点について」